

## 事業の主な目標

- ①児童・生徒が地震・津波に対する正しい知識を身に付けるとともに、災害発生時には防災リーダーとして積極的に活動できる姿を目指す。
- ②児童・生徒が取り組んだ成果等を外部に発信していくことで、学校間・地域間の防災に対する意識の差の解消を目指す。

## モデル地域及び拠点校の設定

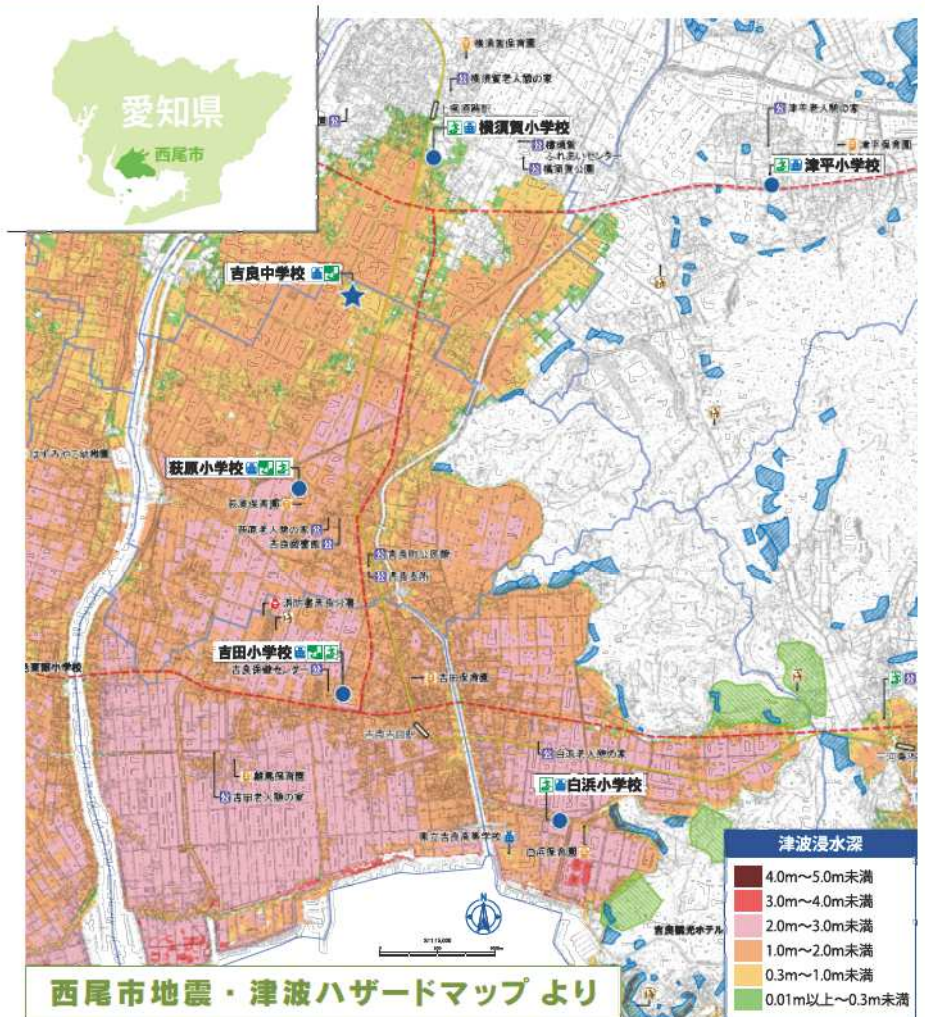
モデル地域：

吉良地区(中学校1校、小学校5校)

拠点校：吉良中学校

現在、市内の学校の多くは、津波発生の危険がある場合、児童・生徒が在校中であれば高層階へ垂直避難することになっています。しかし、学校にいない場合(在宅中など)であれば、原則として津波浸水想定区域外に避難することになります。それらを踏まえ、幅広い避難方法の習得が必要となる津波浸水想定区域に位置する吉良地区をモデル地域に設定し、防災に関わる事業を進めることにしました。

また、自らの命を守ること(自助)はもちろん、他者を助ける意識を育てること(共助)が大切となると考え、防災リーダー育成の観点から吉良中学校を拠点校とし、吉良中学校の1年生を中心に防災活動を進めることにしました。



## 実践委員会の設置

本事業を円滑に推進していくために、学校関係者、地域団体、行政で組織した実践委員会を設置しました。年3回の実践委員会を通して、より効果的な活動方法などについて意見交換をしたり、避難訓練など、各校の防災に関わる取組における課題等を共有したりすることができました。

実践委員 (26人)

- ・防災教育アドバイザー 近藤ひろ子氏 (JICA 防災教育担当専門家)
- ・吉良地区の代表町内会長、自主防災会会長、吉良中学校 PTA 会長・副会長
- ・西尾警察署、西尾市消防本部
- ・吉良中学校長及びモデル地域の教諭 (防災担当教諭など)
- ・県教育委員会、市教育委員会
- ・危機管理課



近藤ひろ子氏



実践委員会の様子